

このビジョンは、南信州広域連合において、「2050年に南信州を日本一住みたい地域にするためには」をテーマとして、4つのブロックに分かれて行われた議論を、地域づくりのイメージを共有するための絵姿としてまとめたもので、令和4年2月28日に開催された令和4年南信州広域連合議会第1回定例会全員協議会で公表された。

南信州リニア未来ビジョン

(議論のための)



令和4年2月版

南信州広域連合

～2050年に南信州を日本一住みたい地域にするための未来像を描く～

リニア中央新幹線が開通すると、三大都市圏と南信州地域の時間的距離は大幅に短縮され、三遠南信自動車道開通の効果とも相まって、「ヒト、モノ、コト」の流れが大きな潮流となり、この地域に様々なインパクトを与えると予想されます。このような大型交通インフラ整備を千載一遇の好機と捉え、新たな交流と地域資源の拠点を形成していくことが、南信州地域の発展につながっていくと考えます。

南信州広域連合が策定した令和2年度から6年度までを計画期間とした後期基本計画の中では、リニア開通の効果を地域振興に活かす観点から、この地域をどのようにしていきたいかをビジョン（絵姿）としてまとめていくこととしています。

折しも世界的なコロナ禍に直面し活動が制限される一方で、デジタル社会の急速な進展や地方回帰への関心の高まり、健康志向など、新たな価値観も生まれてきています。

南信州広域連合では、4つのエリアに分かれて行われた議論をもとに、ビジョンを策定しました。このビジョンは、いわゆる行政計画ではありません。郡市民の皆さんと地域づくりのイメージを共有するための一つの提案です。これをもとに、「2050年に南信州を日本一住みたい地域にするためには」をテーマに、皆さんと意見交換をしていきたいと考えています。

《 ビジョンの構成 》

| | | |
|---|----------------------|----|
| 1 | リニア開通で変わる南信州とビジョンの作成 | 1 |
| 2 | 飯田市（中部ブロック）のビジョン | 4 |
| 3 | 北部ブロックのビジョン | 10 |
| 4 | 西部ブロックのビジョン | 14 |
| 5 | 南部ブロックのビジョン | 17 |
| 6 | 南信州全域図（分野別） | 21 |
| 7 | おわりに | 28 |

1 リニア開通で変わる南信州とビジョンの作成

(1) 多様な交流圏域の形成と「ヒト、モノ、コト」の流れ

リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通により、高速交通網でつながった都市圏からの来訪者が増加し、多様な交流が生まれることが期待されます。こういった流れを地域の中で大きな対流にしていくためには、広域交通拠点やそれぞれの地域拠点の連携を促進し、ヒト・モノ・コトがつながる交流圏域を形成していくことが必要です。そのためには、拠点間をつなぐ道路網の整備や交通の新機軸の構築は重要な要素と考えます。

南信州の主な道路軸は、西部軸（県道飯島飯田線～国道153号）、中央軸（国道153号～国道151号）、東部軸（県道1号）、外環状道路軸（西部軸～国道418号～国道152号～県道22号～県道59号）、東西横断軸（三遠南信自動車道～県道251号～座光寺上郷道路）などで構成されています。このうち西部軸の国道153号飯田南道路、東部軸の県道1号、東西横断道路の県道251号、外環状道路軸の国道418号については、国や県との連携を図り、整備を特に推進する必要があります。

また、中心市街地を取り囲む道路軸として、座光寺スマートICと山本JCTを經由して飯田上久堅喬木富田IC～国道256号などを結ぶ道路で構成される中環状道路軸が設定されています。さらに飯田IC～国道153号飯田バイパス～リニア駅～座光寺上郷道路～県道飯島飯田線～羽場大瀬木線及び中心市街地へアクセスする日ノ出江戸町線を加えた道路を、内環状道路軸と設定しています。

そのほか、南信州地域を南北に走る飯田線は、通勤通学のみでなく高齢者等交通弱者の足として利用されています。近年は、「秘境駅ブーム」等で観光面でも注目されており、リニア中央新幹線との連携を図ることで利便性が向上し、更なる活用が進むものと考えられます。

リニア開通効果を地域全体に波及させるためには、リニア駅を基点とした二次交通の整備を進めることが重要です。自動運転技術や新しいモビリティも活用し、需要に柔軟に対応できる交通システムの構築が求められます。

しかし、リニアの開通でヒトやモノの交流が盛んになり、経済の活性化につながることを期待する一方で、この地域の人々の圏域外への流出が進むのでは、という懸念もあります。そうならないために、生産年齢人口の増加に向けた積極的な対策が必要になります。また、地域の魅力、新たな価値の創造など、リニアが開通してもこの地域に住み続けたいと思えるまちづくりが必要です。

今回のビジョンは、このような二面性を意識しながら、どのような未来を描くことがこの地域にとって望ましいのか、その方向性を地域全体で共有するために、視覚的にも分かりやすい「未来の絵姿」という形でまとめました。

■リニア中央新幹線、三遠南信自動車道開通後の地域間交流のイメージ



(2) ビジョン作成のアプローチ（2つの視点と7つの分野）

ア 2つの視点

リニアの開通効果を活かし、地域振興につなげていくためには、外から呼び込む交流人口を増やすだけでなく、この地域から人々が離れていかないようなまちづくりが必要になります。

2050年に日本一住みたい地域になるということは、ここに住んでいる皆さんが「30年後にこんな地域になっていたらずっと住んでいたい」と思えるようなまちにしていこうということです。下伊那郡部では、ブロックごとの議論で出された様々なアイデアを、住んでいる人が住み続けたいと思うまちづくりにつながるもの（内部目線）と、外の人を訪れたい、つながりたい（住んでみたい）と思うまちづくりにつながるもの（外部目線）の2つの視点を意識して整理してみました。

◆内部目線 … 住んでいる人が住み続けたいと思うまち

◆外部目線 … 訪れたい、つながりたい（住んでみたい）と思うまち

イ 7つの分野

住みたいまちづくりに必要な要素には、仕事、遊び、教育など様々な種類があります。これらをいくつかの分野にまとめて色分けし、視覚的に分かりやすくするため、ピクトグラム（事象をイメージ化した絵文字）でそれぞれのエリア図に表しました。同じピクトグラムでも分野が違う場合には、違う色で表すこととしています。

ビジョンに示す分野と色分けは、以下の7種類としました。

◆つながり・移住【赤】 - 移住につながる外部との交流、企業誘致等（外部目線）

◆暮らし・仕事【橙】 --- 住まい、仕事（地場産業含む）、子育て、買い物等
（内部目線）

◆観光・レジャー【緑】 - 外部目線での観光や内部目線でのレジャー等

◆学び【青】 ----- 高等教育、生涯学習、環境・スポーツ・キャリア教育、
担い手教育等

◆健康・福祉【桃】 ----- 医療、福祉、健康づくり、保養等（内部目線）

◆地域の財産【黒】 ----- 育て守っていくもの、
強み（風景、伝統文化、伝統芸能、伝統産業等）

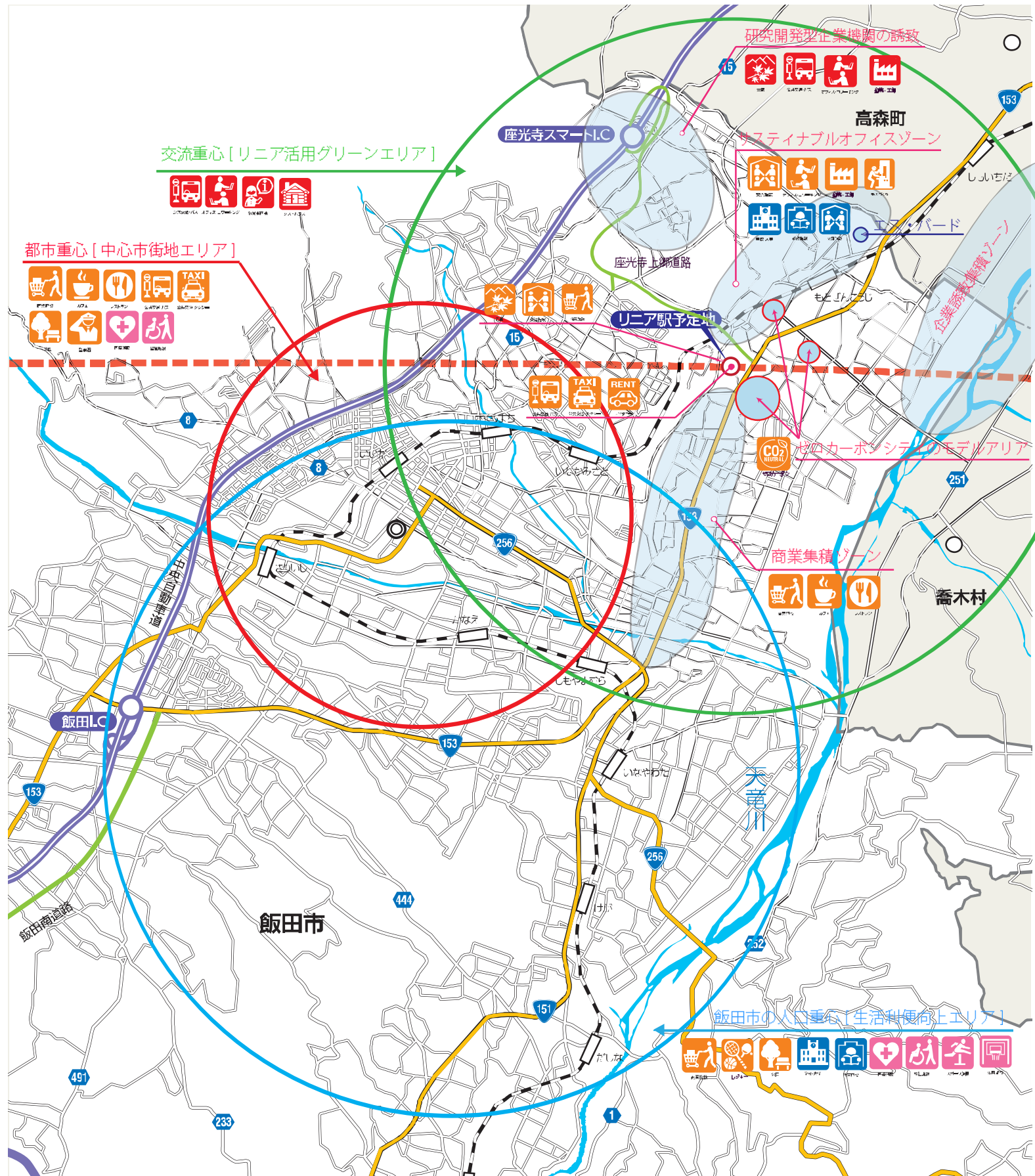
◆道路 ----- 新規路線、改良路線ほか特記すべき路線

(3) 南信州地域を構成する4つのエリア

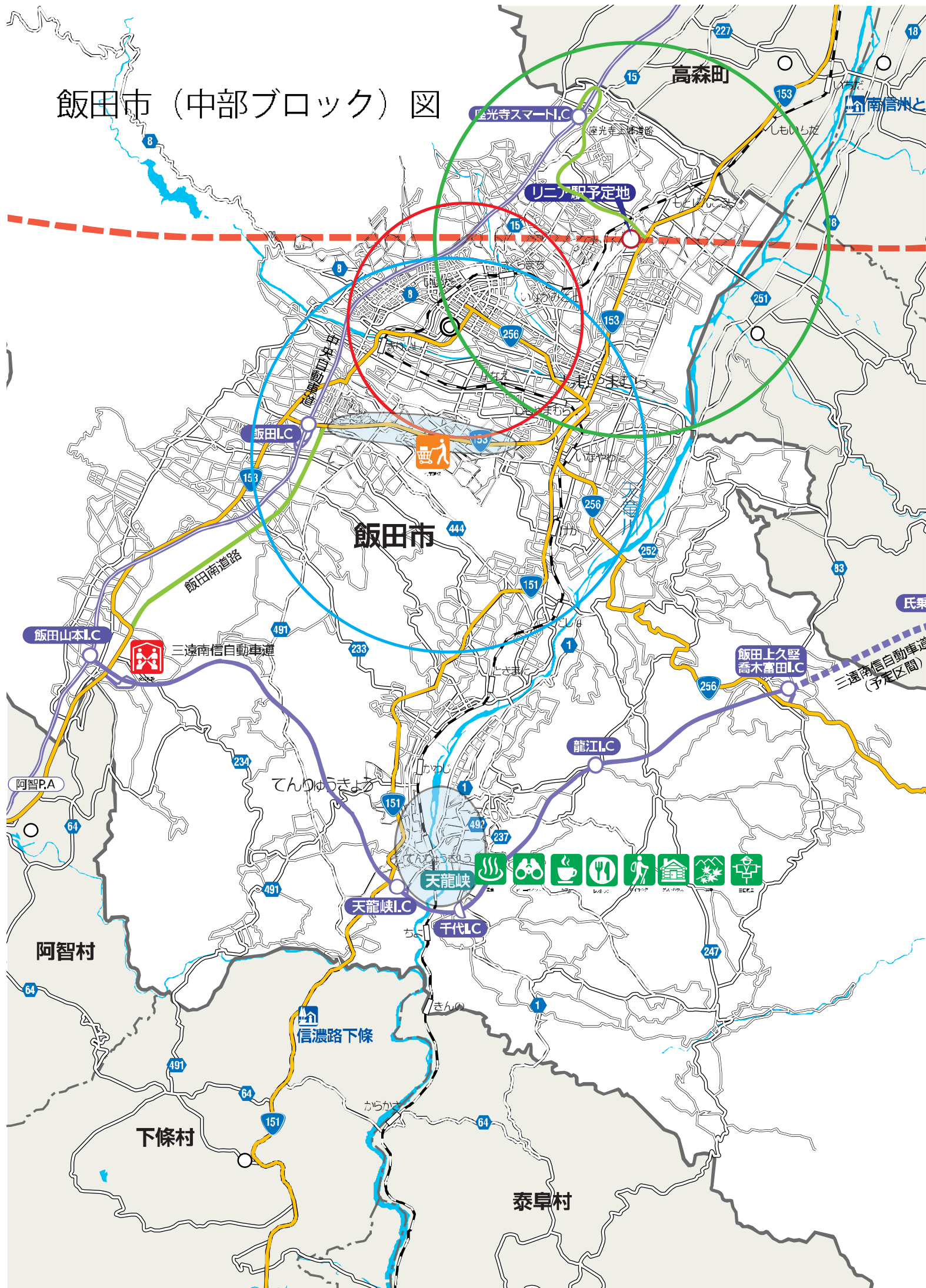
南信州地域は、飯田市と下伊那郡の13町村で構成されています。このうち郡部は、北部（2町3村）、西部（3村）、南部（1町4村）の3つのブロックに分けられます。

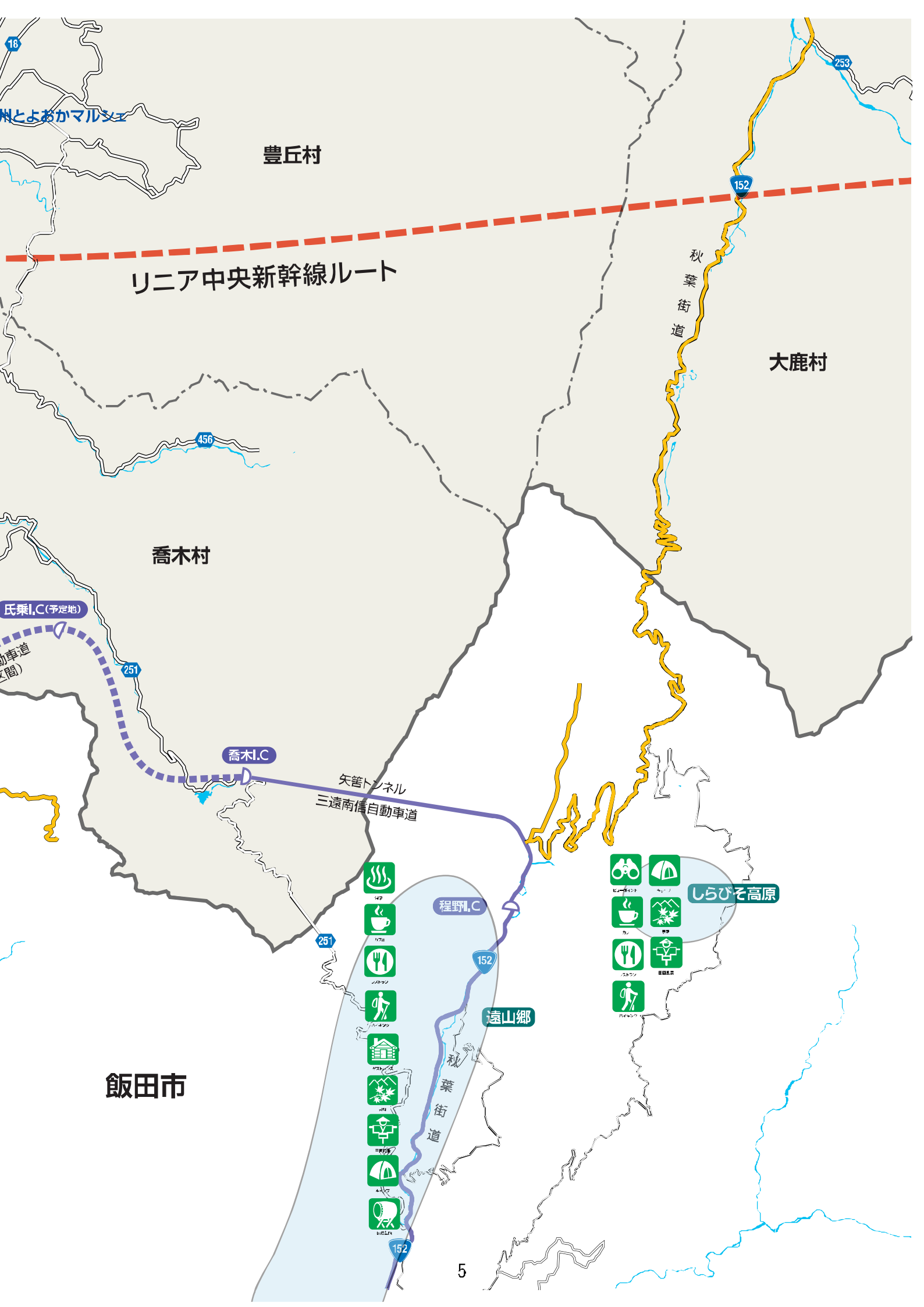
このビジョンは、これら4つのブロックごとに検討チームを構成し「2050年に南信州を日本一住みたい地域にするためには」をテーマに、それぞれの自治体の枠を超え、広い視点に立って協議を行ってきました。各ブロックでの検討結果を広域連合として集約し、整理調整を行ったものが今回のビジョンとなっています。エリアごとテーマに対するアプローチの方法や検討の仕方が異なるため、協議の進捗に差はありますが、これまでの議論を一旦とりまとめ、完成形ということではなく、現時点における地域の将来像として示しています。

飯田市（中部ブロック）3重心図



飯田市 (中部ブロック) 図





州とよおかマルシェ

豊丘村

リニア中央新幹線ルート

大鹿村

喬木村

氏乗IC(予定地)

自動車道
(区間)

喬木IC

矢筈トンネル
三遠南信自動車道

程野IC

遠山郷

飯田市

しらびそ高原



2 飯田市（中部ブロック）のビジョン

(1) 特長と機能

飯田市は、人口約 10 万人の南信州地域の中心市です。市域の北部にリニア中央新幹線の間駅が設置されることから、この影響を直接受けることとなります。これまで、「地域の多様性をいかし、豊かな暮らしを実現する持続可能なまち」の実現に向けて、「山」「里」「街」のそれぞれのストックと魅力を活かしたまちづくりを進めてきましたが、リニア関連事業全体の概要も明らかになり、新たな状況も発生してきている中、新たな視点でのまちづくりの検討が必要となっています。

(2) まちづくりの基本的な考え方（エリアイメージ）

リニア時代を見据えた 21 世紀型の新しいまちづくりを展開するため、「都市重心」・「人口重心」・「交流重心」という 3 重心を意識したまちづくりを基本に据えます。

(3) 「3 重心」による機能と構造

◆都市重心[中心市街地エリア]

「都市重心」としての中心市街地には、行政機能、まちなか M I C E 機能（飲食・宿泊・会議等）、文化活動の拠点機能等多くの都市機能が集積しています。さらに今後、居住環境や交通利便性の向上を進め、リニア時代に人・資本・情報を呼び込み多様なライフスタイルを実現できるエリアとしていきます。

◆人口重心[生活利便向上エリア]

「人口重心」は、国勢調査の結果から導き出される地点で、飯田市の「人口重心」は国道 153 号線バイパス南側の鼎名古熊地籍に位置しています。これを中心とする 3 km 圏内は、中心市街地が含まれるほか、市民生活を支える居住や商業機能等を担っていることから、生活利便性を向上させるエリアとします。

◆交流重心[リニア活用グリーンエリア]

リニア駅は、地域内外への移動のための広域交通拠点であり、中央自動車道座光寺スマートインターチェンジと連動し、多様な人材が行き交い、新たな人の流れと交流を生み出す「交流重心」と位置付けます。このエリアでは、自然の持つ多面的な機能や仕組みを活用し、災害復旧・復興等にも配慮してグリーンインフラの導入を検討します。

(4) 交流重心（リニア活用グリーンエリア）の機能

◆つながり・移住

○多様な人材が行き交う拠点となり、地域の強みを活かした新しい産業の創出や、リニアを利用した大都市と地方にまたがる新しいライフスタイル（二地域居住、都市圏勤務・通学、ワーケーション等）を創出する「交流重心」を目指します。

○交流重心では、リニアがもたらす様々な人材の往来を想定し、民間の積極的な投資を誘引し、サテライトオフィスやワーケーションなどの受け入れを推進します。



○座光寺スマートICを中心に、リニア駅、エス・バード（産業振興と人材育成の拠点）を結ぶエリアは、アクセス環境の利便性と南アルプスの眺望等の自然景観の強みを併せ持ち、さらに北部町村を含む天竜川周辺の産業団地等との連携も可能なことから、海外も対象に含めた研究開発型企业・機関の誘致を推進します。



◆暮らし・仕事

○リニア駅及び座光寺スマートICを含むエリアは、自動車、鉄道、路線バス等の各種交通モードへのアクセス機能と乗換利便性を高めることにより、地域内外への移動を円滑にするための広域交通拠点として機能させます。

○リニアの開通効果を活かすことができる二次交通や、持続可能な地域公共交通の構築という観点も含め、広域交通拠点とその他の拠点（中心拠点・交流拠点・地域拠点）とのシームレスな接続を実現するため、最新の技術動向も踏まえつつ、望ましいモビリティの導入・実装に取り組みます。



○リニア駅前広場の整備については、リニアの乗降客のみならず、当地域の人も利用できる「人が主体の賑わいのある空間」とすることを基本としています。

○これを踏まえ、環境に優しい気持ちの良い空間の創出するため、周辺に広がる良好な田園風景や段丘崖の緑、またその背後に横たわる南アルプスや伊那山地等の豊かな自然、こうした信州・伊那谷らしい景観を維持しつつ、道路サイン計画やランドスケープの観点を踏まえて、都市と自然が調和した良好な環境を整備します。

○環境・エネルギー分野やモビリティ分野での技術革新、コロナ以降の社会的価値観の変容も含め、地域や社会を取り巻く環境や情勢の変化にも柔軟に対応できるような可変性が必要となります。



- 世界に貢献する産業振興と新たな価値創造に向け、エス・バードでは、産官学連携によりリーディング産業を創出して未来に羽ばたく人材と技術を育て、当地域の産業の高度化、高付加価値化を実現していきます。
- リニア駅とエス・バードを結ぶエリアを「サステイナブル オフィスゾーン」とし、リニアがもたらす人の流れを活かすことができるビジネスゾーンの形成を推進します。具体的には、サテライトオフィスを含め、新たな企業の積極的な誘致や研究開発を促進するとともに、人材の誘導を進めることにより、コロナ後の環境の変化を的確に捉えた新しいビジネスの創出や、地域産業との連携・交流等の機能を担います。



- 「2050 年いいだゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けて、交流重心において再生可能エネルギーや脱炭素技術の活用を進め、この取り組みを域内に広げることにより、「ゼロカーボンシティ」モデルの構築を目指します。
- 特に、リニア駅前広場では、再生可能エネルギーや脱炭素技術の活用による省エネ・創エネ等を進め、ゼロ・エミッションのモデルとなるシステムの構築を目指します。
- また、リニアに関連する事業に伴い移転をお願いする皆様に向けて整備している代替地については、脱炭素な暮らしを実現する住宅を集積することにより、環境文化都市のモデルとなる環境共生エリアを具現化します。



◆学び

- 誘致を目指す大学を地域づくりの中核に据え、産官学が一体となって新たな価値の創造に取り組むことで、リニアにより形成されるナレッジ・リンク(知の集積)の一翼を担い、当地域が国内や世界に影響力を持つ存在となることを目指します。



(5) 人口重心（生活利便向上エリア）の機能

◆暮らし・仕事、学び、健康・福祉

- 当地域の「人口重心」は、広域的な交通を支える中環状道路軸のほぼ中心にあり、3 km 圏内には、飯田運動公園等のスポーツ施設や市立病院があります。また、このエリアの中心を東西に走る国道 153 号バイパス及びその周辺には、店舗が集積

し、医療・介護福祉・子育て支援・金融等の施設もあります。こうしたことから、当地域全体の生活利便性を向上させる中心的な役割を担うエリアとして、今後も維持発展させていきます。



(6) 都市重心（中心市街地エリア）の機能

◆暮らし・仕事、健康・福祉

- 中心市街地では、国や県の行政や文化施設、さらには金融や飲食・宿泊等の機能が集積しています。
- 今後は、これらの機能や、警察・消防等の生活の安全安心を守るための施設の集積を維持しながら、居住環境や交通利便性の向上を進め、併せてまちなかでの文化活動やMICE機能等も充実させることにより、リニア時代に人・資本・情報と呼び込めるような、多様なライフスタイルを実現できる「都市重心」としてのまちづくりを推進します。



(7) その他のエリアの機能

◆観光・レジャー

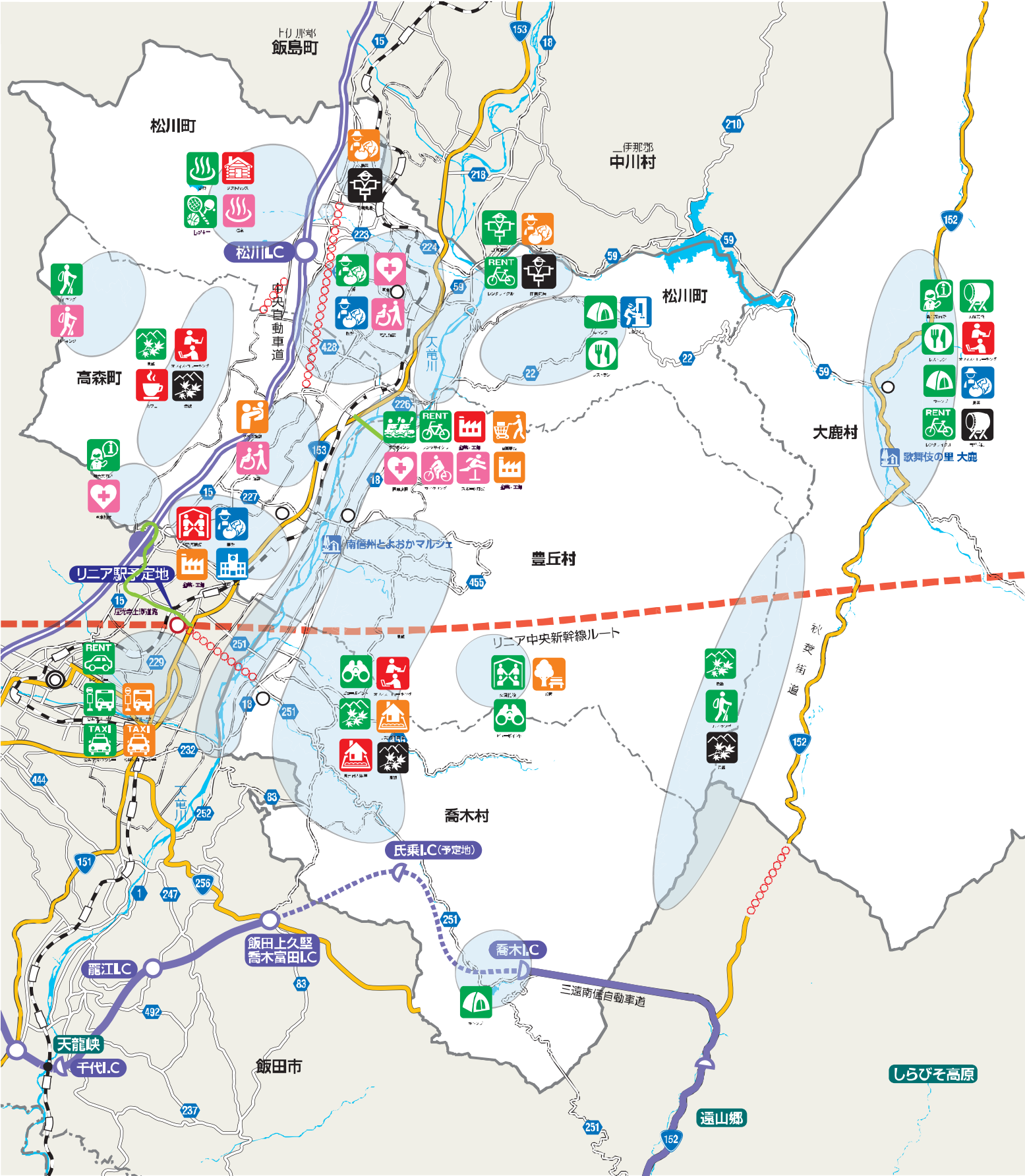
- 三遠南信自動車道の開通により、遠山郷や天龍峡には、三河遠州方面のみならず、さらに広いエリアからの観光客が期待されます。また、当地域を經由しての上伊那や木曾・岐阜県方面への人の移動も想定されることから、これらを多様な交流や観光消費の増大につなげていきます。
- コロナ後の観光の方向性（周遊・長期滞在等）も見据える中、当地域の雄大な自然や伝統芸能、特色のある食事といった固有の地域資源に、体験教育等の独創的なアクティビティを加えて、地域の魅力の向上を図り、人の交流の拡大につなげていきます。



◆道路

- 当地域への新たな人の流れを創出し、多様な交流につなげていくために、社会基盤としての道路整備と二次交通の整備を着実に進め、当地域内の利便性を高めつつ、町村も含めた各拠点間の連携を強化していきます。

北部ブロック図



3 北部ブロックのビジョン

(1) 特長と機能

北部ブロックは、松川町、高森町、喬木村、豊丘村、大鹿村の5町村で構成され、ブロック内の人口規模は4万人弱で交通インフラも発達しており、リニアや三遠南信自動車道が開通すれば物流や人流の盛んなエリアになると考えられます

また、河岸段丘などの自然を活かした体験プログラムや山岳観光、多様なライフスタイルの実現などが期待できるエリアでもあります。

(2) まちづくりの基本的な考え方（エリアイメージ）

北部ブロックでは、まちづくりの基本的な考え方を「住んで楽しい・遊んで楽しいまちづくり」とし、検討チームでは、若手職員や地域の中学生、高校生、大学生、社会人の方たちなど、30年後の北部地域を担っていくことになる若い世代の皆さんを中心に意見を聞き、出されたアイデアを分野別にまとめました。

◆つながり・移住

○国道やJRの沿線、リニア駅に近接した交通インフラが集積したエリアでは、企業の誘致や空き家等を活用したレンタルオフィスなどの整備が考えられます。

○河岸段丘を活かした眺望の良いエリアは、ゲストハウスや情報インフラの整ったサテライトオフィス、農地付き住宅等を整備することにより、新たな働き方、暮らし方の提案ができると考えられます。



◆暮らし・仕事

○果樹栽培を始めとする農業支援、里山整備による林業振興等、豊かな自然の中で働くことができる環境整備が必要と考えます。

○子どもの健やかな成長を支援するための居場所づくり、多世代・多文化交流施設、自然体験施設の整備や買い物環境の充実など、暮らしの質の向上につながる取り組みも重要です。



◆観光・レジャー

- この地域を訪れる人たちが旅を満喫し、また訪れたいと感じられる観光地域づくりと、この地域に住む人たちが暮らしの中にゆとりを見出し、地域を楽しめるような生活環境を整えていきます。
- 地域を縦断する天竜川でのリバースポーツや堤防を周遊する広域サイクリングコース、アスレチック、キャンプなどのアクティビティ、農業体験や南アルプス等での山岳観光、眺望の良い場所へのビュースポット整備などが挙げられます。



◆学び

- 子どもが地域で学び、就職できるための高等教育機関の誘致に取り組み、圏域外の学生にとっても学びの選択肢が増え、つながりが生まれていく地域づくりを目指します。



◆健康・福祉

- 子どもから高齢者まで、地域に暮らす皆さんのニーズに合った医療を提供し、将来にわたり地域で支える福祉環境の整備を進めていく必要があります。
- 健康づくりのためのスポーツ施設や、自然に親しむハイキングやサイクリング等の環境整備、リフレッシュするための保養施設等の充実などが挙げられます。



◆地域の財産

○日本有数の河岸段丘である伊那谷の南部に位置するこの地域には、豊かな自然環境や農山村風景、伝統芸能や伝統行事等の固有の地域資源があります。これらは地域の宝であり、貴重な財産として守り伝え、30年後の未来にも引き継いでいかななくてはなりません。



◆道路

○リニア駅や上伊那地域、三遠南信自動車道へのアクセス向上のための道路ネットワーク整備のほか、リニア駅を中心とした広域交通の拠点整備も重要な課題です。